

環境教育に活用できる学校施設検討部会の設置について（案）

1. 部会の設置目的

文部科学省では、平成8年度に環境を考慮した学校施設（エコスクール）の基本的な考え方を取りまとめ、翌9年度からエコスクールのパイロット・モデル事業を実施し、これまでに約1,800校をエコスクールとして認定している。

エコスクールは、環境負荷の低減に寄与するだけでなく、その施設を環境教育に活用することを目的としており、地域の環境教育の発信拠点としての機能を果たすことが期待されている。

本部会では、これまでに認定してきたエコスクール等における、学校施設を活用した環境教育のより一層の推進を図るため、各地域の実情に応じて展開されているエコスクールの環境教育への活用方法等について専門的な見地から調査・検討を行い、優れた事例を取りまとめ、各学校設置者に広く周知することを目的とする。

2. 検討事項

エコスクールとして近年整備された学校施設における環境教育に資するための学校づくりの工夫、環境教育への活用方法や活動の継続・発展の手法

3. スケジュール

[2019年]

2月14日 第1回検討部会開催

2～3月 現地調査

5～12月 検討部会開催（4回程度）

[2020年]

2～3月 事例集とりまとめ

(案)

学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議 環境教育に活用できる学校施設検討部会の設置について

平成31年 1 月 日

学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議決定

環境を考慮した学校施設（エコスクール）の環境教育への活用方法等について、具体的・専門的な検討を行うため、「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」（以下「協力者会議」という。）に以下のとおり、環境教育に活用できる学校施設検討部会（以下「部会」という。）を設置する。

1. 検討事項

- (1) 環境を考慮した学校施設（エコスクール）の環境教育への活用方法について
- (2) その他

2. 実施方法

部会は、別紙の学識経験者等により構成する。なお、必要に応じ、他の学識経験者等にも協力を求めることができる。

3. 実施期間

2019年 1 月 日から2020年 3 月31日までとする。

4. 協力者会議への報告

部会は、検討状況を適宜、協力者会議へ報告するものとする。

5. その他

部会に関する庶務は、大臣官房文教施設企画・防災部施設企画課において処理する。

環境教育に活用できる学校施設検討部会委員

【検討部会委員】

伊香賀	俊 治	慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科教授
伊 藤	俊 介	東京電機大学システムデザイン工学部教授
小 泉	治	株式会社日本設計第3建築設計群副群長
小 澤	紀美子	東京学芸大学名誉教授
鈴 木	賢 一	名古屋市立大学大学院芸術工学研究科教授
鈴 木	徹	川崎市教育委員会事務局教育環境整備推進室担当課長
田 中	稲 子	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授
長 澤	悟	東洋大学名誉教授
長 濱	裕 也	東京都板橋区立西台中学校長

【検討部会特別協力者】

五 島	政 一	国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部 総括研究官
森	政 之	国立教育政策研究所文教施設研究センター長

環境を考慮した学校施設（エコスクール）について

1. エコスクールとは

エコスクールとは、環境を考慮した学校施設のことです。エコスクールは、環境負荷の低減に貢献するだけでなく、それを教材として活用し児童生徒の環境教育に資するものであり、地域の環境教育の発信拠点としても先導的な役割を果たします。

エコスクールの整備に際しては、次の3つの点に留意することが必要です。

施設面：子供たち等の使用者・地域・地球に対し「**やさしく造る**」

- 学習空間、生活空間として健康で快適である。
- 周辺環境と調和している。
- 環境への負荷を低減させる設計・建設とする。

運営面：建物、資源、エネルギーを「**賢く・永く使う**」

- 耐久性やフレキシビリティに配慮する。
- 自然エネルギーを有効活用する。
- 無駄なく、効率よく使う。

教育面：施設、原理、仕組みを「**学習に資する**」

- 環境教育にも活用する。

施設面
やさしく造る

運営面
賢く・永く使う

教育面
学習に資する

エコスクールに関する基本的な考え方

2. エコスクールに関するこれまでの主な取組

[エコスクールのはじまり]

H8 環境を考慮した学校施設（エコスクール）の整備について

→ エコスクールの基本的な考え方（「やさしく造る」「賢く・永く使う」「学習に資する」）を提示

H9 エコスクールパイロット・モデル事業 開始

→ 国土交通省等と連携し、エコスクールの整備を推進（H29年度：エコスクール・プラスに改称）

H13 環境を考慮した学校施設（エコスクール）の現状と今後の整備推進に向けて

→ エコスクールの整備に関する社会的な要請を示し、エコスクールとして整備された学校施設を紹介

[既存も含め全ての学校におけるエコスクールづくりを推進]

H21 環境を考慮した学校施設（エコスクール）の今後の推進方策について

→ 既存の学校施設を含めた全ての学校施設におけるエコスクールづくりの推進を提言

H22 すべての学校でエコスクールづくりを目指して

→ 既存学校施設におけるエコスクールづくりの事例を紹介

H23 環境教育に活用できる学校づくり実践事例集

→ 環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律の改正（エコスクールに関する規定が追加）を踏まえ、環境教育に学校施設を活用している先進的な取組を紹介

H24 学校ゼロエネルギー化推進方策

→ 学校施設におけるゼロエネルギー化の実現手法を提示

スーパーエコスクール実証事業 開始

→ 学校施設のゼロエネルギー化を推進するための実証事業（H24～26年度の3か年）

－ エコスクールを活用した環境教育の実施状況に関するアンケート調査結果 －

調査対象：エコスクールの認定校（H24～28年度の認定校から抽出：291校）、スーパーエコスクール実証事業のモデル校（5校）、学校エコ改修と環境教育事業のモデル校（20校）〔計316校〕

1. エコスクールの主な整備内容

表中の%は、全体[316校]に対する割合

[木材利用・緑化・ビオトープ等]		271 (85.8%)
内訳	190 木材利用（木造・内装木質化）	33 屋上緑化
	7 壁面緑化	22 敷地内緑化（校庭芝生化・菜園等）
	17 ビオトープ	2 緑のカーテン
[再生可能エネルギー利用]		252 (79.7%)
内訳	201 太陽光発電	3 蓄電池
	15 太陽熱利用	14 風力発電
	19 地中熱利用・クールヒートトレンチ・温泉熱床暖房・ジオパワー	
[省エネ・再利用設備]		228 (72.2%)
内訳	83 LED照明・省エネ型（高効率）照明	17 人感センサー
	2 照明制御（回路の細分化含む）	17 節水型トイレ（節水コマ）
	12 省エネ型空調設備	2 コージェネレーションシステム
	20 ペレット・バイオマスボイラー	6 蓄熱空調・地中熱空調設備
	67 雨水利用	2 排水再利用
[施設の断熱化]		161 (50.9%)
内訳	18 外断熱	7 内断熱
	45 断熱化（内・外断熱の別不明）	79 複層ガラス
	2 二重サッシ	1 真空ガラス
	6 遮熱塗料	1 ダブルスキン
[自然エネルギー利用]		115 (36.4%)
内訳	46 自然採光・光ダクト・天窗・ハイサイドライト・開閉式トップライト	
	21 自然換気・通風・ソーラーチムニー・スウィンドウ・環境ダクト	
	27 庇・バルコニー・ルーバー	2 天井裏熱溜
	11 ライトシェルフ	8 ナイトパージ
[その他]		17 (5.4%)
内訳	3 環境学習基地(室)・エコステーション	2 暖房区画
	2 エコマテリアル	2 浸透性舗装
	1 足踏み式発電設備	1 各教室に温湿度計・照度計設置
	1 給食残渣堆肥化	5 発電量等の見える化・モニター設置

2. エコスクールを活用した環境教育の実施状況

熱心に取り組んでいる	35 (11.1%)
ある程度取り組んでいる	216 (68.4%)
あまり取り組んでいない	65 (20.6%)

3. エコスクールを活用した環境教育を実施する上での課題（複数選択可）

教員の異動により、継続が難しい	199 (63.0%)
エコスクールを環境教育に活用する方法が分からない	71 (22.5%)
エコスクール特有の設備の使い方が分からない	39 (12.3%)
エコスクール特有の設備が老朽化により故障している	7 (2.2%)
その他	45 (14.2%)

4. エコスクールを活用した環境教育を継続するための工夫（複数選択可）

地域住民の協力を得ている	76 (24.1%)
施設整備時に環境教育のための教材やマニュアルを整備しており、定期的に見直しながら現在まで引き継がれているため	58 (18.4%)
定期的に設計者等からエコスクールの設備の活用方法について説明を受けている	33 (10.4%)
外部の専門家（地元建築士会等）の協力が得られる体制が構築できている	23 (7.3%)
その他	61 (19.3%)